

## 事業所における 自己評価結果（公表）

公表：平成 31 年 月 日

事業所名 こどもサポート教室「クラ・ゼミ」広島大町校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		教室を個室で設計し、人数に応じて割り当てている。	
	②	職員の配置数は適切である	○		適切である。	女性支援員の配置数を見直す。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		施設内を福祉事業で使用することを想定し、改装している。	支援内容によって、教室を変える等の配慮を行う。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		施設内を福祉事業で使用することを想定し、改装している。	支援内容によって、教室を変える等の配慮を行う。
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		会議を行い、職員の意識向上に努めている。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケート結果をもとに、改善策を検討している。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		公開している。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		第三者から、改善案等のアドバイスを頂いている。	定期的に行うことを検討する必要がある。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		月に1階他校舎と連携し、研修・会議を実施している。	
適切な	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		利用後に10分間のフィードバック、話し合いを行っている。それをもとに、支援計画を作成している。	

支援の提供	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		状況に応じて、ツールを使用している。	専門機関からのアドバイスを受ける機会を増やすことを、検討する必要がある。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		利用後に10分間のフィードバック、話し合いを行っている。それをもとに、支援計画を作成しているため、具体的な内容となっている。	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		支援計画を職員間で共有し、支援計画に沿った支援を行っている。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		利用開始時、全職員で方向性に関する会議を行う。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		状況に応じて、変更している。	話し合いの場を、定期化する必要がある。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		状況に応じて、変更している。	話し合いの場を、定期化する必要がある。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		ミーティングを実施し、情報共有を行っている。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		ミーティングを実施し、情報共有を行っている。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援シートを作成し、職員間で共有している。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		半年に1度実施している。保護者からご要望があれば、随時対応している。	

関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		管理者を中心に 行っている。	必要であれば、指導員の参加も必要。
	㉑	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		専門機関との連携 を行っている。	定期化し、連携を強化する必要がある。
	㉒	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		専門機関との連携 を行っている。	定期化し、連携を強化する必要がある。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		専門機関との連携 を行っている。	定期化し、連携を強化する必要がある。
	㉔	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		ご要望に応じて、管理者を中心に 行っている。	
	㉕	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		ご要望に応じて、管理者を中心に 行っている。	
	㉖	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		専門機関との連携 を行っている。	定期化し、連携を強化する必要がある。
	㉗	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		月に1度のイベントについては、外部利用も可としている。	

	㉘	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		管理者を中心に、協議会に参加している。	必要であれば、指導員の参加も必要。
	㉙	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		利用後に10分間のフィードバック、話し合いを行っている。	
	㉚	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		ご要望に応じて、 行っている。	

保護者への説明責任等	③②	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		保護者に伝わりやすいよう、丁寧な説明を行っている。	
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		契約時に、説明を行い、随時同意を得ている。	
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		面談・電話を通して、随時行っている。	
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		ご要望に応じて、行っている。	定期開催を検討する必要がある。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		担当職員を配置し、管理者を中心に迅速に対応している。	
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		定期ではなく、必要に応じて発信している。	定期化の検討をする必要がある。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	○		契約時に、保護者へ個人情報の取り扱いについて説明を行い、書類は鍵付きの棚に保管する等、留意している。	
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		事例検討会議を行い、職員の意識向上に努めている。	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		月に1度のイベントについては、外部利用も可としている。	

非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		月に1度、防災・防犯訓練を行っている。	今後は保護者に対して、訓練の様子を伝える媒体を作成する。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		月に1度、防災・防犯訓練を行っている。	今後は保護者に対して、訓練の様子を伝える媒体を作成する。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		契約時に保護者への確認を行っている。	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		食品を扱う際には、事前にアンケートを通して、アレルギーの確認を行い、留意している。	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事例検討会議を行い、職員の意識向上に努めている。	
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		月に1度、事例検討会議を行い、職員の意識向上に努めている。	
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		契約時に保護者に伝え、記載している。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

## 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：平成 31年 月 日

事業所名 こどもサポート教室「クラ・ゼミ」広島大町校 保護者等数（児童数） 1 回収数 1 割合 100%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	1					
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	1					
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	1					
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	1					
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	1					
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	1					
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	1					
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	1					
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1					
保護者への説明等	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	1					
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	1					
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	1					

	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	1					
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	1					
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1					
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	1					
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	1					
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	1					
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	1					
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか						
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか						
満足度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	1					
	㉓	事業所の支援に満足しているか	1					

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。